

鳥取県立図書館からの報告

(対象期間：平成30年12月～令和元年11月)

(報告者) 鳥取県立図書館
郷土資料課 中尾 有希子

1. 資料展示

(1) 特別資料展示 (特別資料展示室における展示)

	期間	タイトル	入場者
平成30年度	12月14日～ 1月20日	陸上競技を読む! 公益財団法人鳥取県体育協会設立100周年記念の特別展。 主催：公益財団法人鳥取県体育協会 共催：鳥取県立図書館	407名
	3月1日～ 3月19日	わたせのぶあき原画展 鳥取市出身の画家わたせのぶあき氏のご遺族より寄贈された絵本『ふ～んだ』の原画22点を展示。主催：鳥取県立図書館	620名
令和元年度	4月2日～ 4月29日	書で味わう放哉 尾崎放哉(鳥取市出身・俳人)の命日(放哉忌)にあわせて、当館所蔵の書家住川英明氏が書いた放哉の句6点を展示。平成23年度の寄贈から初めての公開。主催：鳥取県立図書館	390名
	5月10日～ 6月9日	～タウン誌『スペース』とその書き手・徳永進～本とその資料展 IN 鳥取県立図書館 1978(昭和53)年から約20年間毎月発行されたタウン誌『スペース』。平成29年度に鳥取大学で「スペース」を題材とした授業を行ったこと等をきっかけに企画展示が行われたが、第2弾を当館で開催。主催：『スペース』と徳永進本とその資料展 実行委員会 共催：鳥取県立図書館	275名
	9月17日～ 10月9日	「とっとり県民の日関連展示」 鳥取県の郷土玩具～板祐生生誕130年に寄せて 板祐生(鳥取県出身、孔版画家の第一人者、郷土玩具等の収集家)の生誕130年にちなみ、当館所蔵の版画作品等を展示。あわせて鳥取県市場開拓局販路拡大・輸出促進課から借用した郷土玩具の実物を展示。主催：鳥取県立図書館	190名
	10月19日～ 11月4日	声をそえるー8ミリフィルムと5人の鑑賞者、その語り<川端編> 地域に眠る8ミリフィルムを収集、公開・保存する事業に取り組む「すみおれアーカイヴス」との連携企画。収集した8ミリフィルムの映像(S30～50)に当時を知る方々のインタビューを加え、映像と音声で当手をふりかえる。映像のほか、当時の年表や地図、図書等の図書館資料をあわせて展示。 主催：地域の記憶と記録にまつわるプロジェクト「すみおれアーカイヴス」 協力：鳥取県立図書館	147名
	11月19日～ 12月23日	「文字・活字文化の日」記念事業 とっとり文学の情景 情景を生み出す風景と旅 平成30年に刊行した「郷土出身文学者シリーズ 特別編 とっとり文学の情景(増補版)」で紹介した文学の情景について、その言葉と風景写真で紹介。会期中には、郷土文化講演会を開催。 主催：鳥取県立図書館 後援：鳥取大学地域学部「地域学研究会第10回大会」	332名

(2) ミニ展示・企画展示（郷土資料室及び一般図書室の展示スペースを利用した展示）

	期間	タイトル
平成30年度	12月15日～1月9日	鳥取県出版文化賞 2018 「鳥取県出版文化賞」とは、郷土の優れた著作や出版活動をたたえ、文字・活字文化の発展を目指すため、1976年に創設された賞（42回目）。平成30年度および過去2年分の受賞作品・候補作品を展示。
	2月23日～3月28日	雑誌・フリーペーパーで知る DEEPな鳥取がおもしろい 鳥取県内で発行される生活情報誌、文芸誌、経済誌など様々なジャンルの雑誌やフリーペーパーを展示し、地元の情報を収集に役立つことを周知。
令和元年度	5月1日～6月12日	「平成」から「令和」へ ～明治・大正・昭和・平成 過ぎ去りし鳥取の記憶 5月1日の改元にちなみ、数々の行啓の記録や、世相の変化を記録した資料や写真を展示。
	6月1日～6月29日	もっと知りたい！韓国・中国 鳥取県が韓国・江原道と友好提携を結び、また中国・吉林省と友好交流覚書を締結してから、それぞれ今年で25周年を迎えた。当館も、韓国、中国の図書館と図書交換等を通じて交流している。韓国・中国関係図書を展示し、当館の環日本海交流室・国際交流ライブラリーの活動を紹介。
	7月18日～8月18日	『とっとりNOW』創刊30周年 鳥取県の自然や文化、旬な話題や人物などを発信する鳥取県総合情報誌『とっとりNOW』の創刊30周年を機に、創刊号～最新号を展示。鳥取県広報課と連携。
	7月18日～8月18日	森康二のアニメーションの世界 NHK連続テレビ小説「なつぞら」の登場人物のモデルと言われ、アニメーションの世界に大きな足跡を残す鳥取市出身の森康二の作品や自伝を紹介。
	9月17日～10月9日	減災のすすめ ハザードマップで災害に備えよう 9月の防災週間・県内で大地震を経験した10月にちなみ、鳥取県内の市町村のハザードマップ、鳥取県を襲った過去の災害の記録、災害への備えについて書かれた本などを展示。同じ時期に、県内の市町村立図書館でも「ハザードマップ展」を開催。
	10月26日～11月13日	昭和～あの頃のとっとり 鳥取県内各地で撮影された写真を集めた写真集、新聞で報道された出来事を紹介した本など様々な資料で、昭和の鳥取を振り返る。 (同時期に特別資料展示室で開催した展示「声をそえるー8ミリフィルムと5人の鑑賞者、その語り<川端編>」と連携)

(3) 他館を会場にした資料展

	期間・会場	タイトル
30年度	1月19日～2月3日 会場：米子市立図書館	資料展「自由律俳人・尾崎放哉のすがたーデジタル化資料の活用にもむけてー」 鳥取県立図書館デジタル化推進事業をPRするための資料展を開催。 鳥取県を代表する自由律俳人・尾崎放哉に関する書簡や写真を原資料とデジタル化資料で紹介。また、30年度にデジタル化した資料の高精細画像やデジタル化資料の魅力・活用方法も紹介。共催：米子市立図書館

2. 講演会・行事

(1) 郷土文化講演会

演題：「とっとり文学の情景 地域を見つめる旅」

日時：令和元年11月23日（土）午後2時から4時

講師：川村湊氏（文芸評論家・法政大学名誉教授）

(2) 「文字・活字文化の日」記念講演会（ブックインとっとり記念講演会）

地方出版文化功労賞奨励賞受賞者による講演

講演①「ほっとかない郊外と61人の登場人物」小池志保子（大阪市立大学准教授、建築家）

講演②「今、満洲移民の歴史が問いかけるもの」大日方悦夫（現代史研究家、元長野県立高等学校長）

日時：令和元年11月2日（土）午後1時～3時30分

(3) 鳥取県に伝わる昔話を聞く会

日時：毎月第4土曜日 午後2時から30分程度

語り手：中嶋須美子氏

3. 研修・講座

(1) 新任図書館員を対象とした実務研修会（平成31年4月17日）

県内図書館の新任職員等を対象にした研修会。「本の正しい扱い方と郷土資料の活用法」を講義。

(2) 鳥取県ジュニア司書養成講座（令和元年6月15日、22日、30日）

小・中学生を対象とした「ジュニア司書」養成講座。郷土資料についての講義や郷土資料室での実習を行った。

(3) 行政職員向け研修「図書館に学ぶ！1ランク上の情報収集講座」（令和元年9月6日・7日）

鳥取県人材開発センターとの共催企画。県及び県内自治体職員の研修講座として「図書館を活用した情報収集講座」を開催。図書やインターネットを活用した情報収集、郷土資料の活用法についての講義を行った。平成18年度より継続開催。

4. 外部との連携

(1) 鳥取大学の授業活用

内容：鳥取大学全学共通科目「デザインプロジェクト」は地域課題をテーマとしたプロジェクト型の授業。学生が県立図書館周辺の現地調査をもとに問題を分析し、解決策の提案をまとめるというもの。当館では、図書館の利用方法、機能、サービス等について（講義）、学生による資料調査が行われた。

日時：令和元年10月19日（土）午後1時30分～4時15分 会場：鳥取県立図書館

今後の予定：学生の提案をまとめたパネルや使用した本の展示、プレゼン（発表会）の開催

(2) ホスピテイル・プロジェクトとの連携

内容：30年度に続き、県民によって撮影された8ミリフィルムの映像を収集・保存・活用する「すみおれアーカイヴス」との連携。今回は、展示「声をそえるー8ミリフィルムと5人の鑑賞者、その語り<川端編>」（前掲）とあわせて、トークイベント「私<わたくし>の声をきく」を開催。これまでの活動紹介や展示の裏側、個人の記録物を保管するための活用法や可能性を考える会となった。当館は、展示の協力や連携展示を行い、トークイベントに郷土資料課職員も出演した

期間：令和元年10～11月 会場：鳥取県立図書館

(3) 「日常記憶地図」との連携

内容：「日常記憶地図」とは、個人の記憶を地図上にたどり、話したり、書いたりすることで、記憶とまちの関係性を立体的にとらえていくプロジェクト(主催:鳥取藝住実行委員会(totto 編集部))。3回連続講座の2回目には、図書館の資料を使って、記憶を補強・確認する内容であり、郷土資料課職員が資料調査のサポートを行った。

日時：令和元年10月27日(日)午後1時～5時 会場：鳥取県立図書館

(4) 鳥取大学地域学部との連携

内容：鳥取大学地域学部「地域学研究会第10回大会 地域をえがく-想像力としての地域学」のシンポジウムのパネリストの一人として当館学芸員が登壇。特別資料展「とっとり文学の情景 情景を生みだす風景と旅」やデジタル化推進事業等に関する内容を発表予定。

日時：令和元年11月24日(日) 会場：鳥取大学

5. 統計および資料保存の取り組み等**(1) 統計****利用状況(郷土資料)**

	貸出冊数(一日あたり)	レファレンス
平成30年度	7,083冊(22.0冊)	4,139件
平成29年度	7,174冊(21.8冊)	4,305件

蔵書冊数(郷土資料)

平成30年度	平成29年度
144,008冊(全蔵書の12.4%)	141,586冊(全蔵書の12.4%)

※平成30年度2,422冊増加

(購入：545冊 寄贈：1,815冊 生産・その他：79冊 除籍：17冊)

(2) 郷土関係情報の収集およびデータ入力

①図書、逐次刊行物等の収集

②郷土関係情報の入力・発信

- ・「鳥取県郷土人物文献データベース」の新規文献情報の入力
- ・図書、雑誌、研究報告書等の目次・論文名の入力
- ・ホームページの更新(展示・行事の広報、コンテンツの更新)

③郷土関係情報の収集

- ・新聞記事のスクラップ(地元紙・全国紙より鳥取県に関する記事をスクラップ)

(3) 資料のデジタル化計画

- ・現在は、平成15年度から17年度にデジタル化した所蔵絵図(38種類、89点)を公開。
- ・29年度に策定した「総合的なデジタル化計画」に基づき、平成30年度から令和4年度の5カ年計画で、希少性の高い貴重資料や劣化の進行が著しい資料などのデジタル化を行う(令和2年度末にデータ公開予定)。初年度(平成30年度)には様々な形態の郷土資料のデジタル化を試み、1,761点(和本等47点、掛軸等49点、色紙・短冊1,602点、その他63点)のデジタル化を行った。2年目(令和元年度)には、『鳥取県郷土調査(全62巻)』(昭和11年頃に小学校単位で地域の地誌・歴史・民俗等についてまとめた冊子)のデジタル化に着手。
- ・30年度には、県民にデジタル化資料の利便性をPRする展示を開催(前掲の資料展「自由律俳人・尾崎放哉のすがたーデジタル化資料の活用にむけてー」)。